

パネルディスカッション

学習者・教師の多様性を活かした学習環境のデザイン ー「協働」をテーマとした言語教育の環境整備を考えるー

パネリスト：山下誠（神奈川県立鶴見総合高等学校）・野澤督（慶應義塾大学）
本郷智子（東京農工大学）・金孝卿（大阪大学）

パネルディスカッションの趣旨

近年、言語を学ぶ教室において、多様な言語文化背景を持つ学習者と教師が共存する場が増えてきています。このような現状の中で、これまでの日本語教育・外国語教育は、目標言語能力の育成という名のもとで、言語学習の持つ意味や教育の本質に向き合ってきたのではないのでしょうか。

学習者に目を向ければ、学校教育の現場では、日本人の生徒と外国につながる生徒が共存し母語以外の言語を学ぶといった複言語・複文化性の強い言語学習の環境が生まれてきています。大学教育の現場においても、留学生の日本語学習の目的や彼らの置かれた言語環境を踏まえた日本語教育の在り方が問われています。英語以外の外国語教育においては、言語学的知識の修得に留まらず、グローバル化する社会で生きるための汎用的な力の養成の観点から Additional Language としての外国語教育の在り方が再考されています。さらには、言語教育の枠を超え、日本人学生と外国人留学生が共に成長し、社会への接続を図る場のデザインも必要とされています。また、学習者や彼らの置かれた言語環境の多様性もさることながら、学習者と学びの場を共にしている教師の多様性にも目を向ける必要があると考えます。こうした社会的環境に応じた言語教育の在り方を問い直し、より豊かな人間教育のための言語教育の意義を共有したいと思います。

本パネルディスカッションでは、上記の問題意識に関して、4名のパネリストが、韓国朝鮮語教育、フランス語教育、日本語教育、ビジネスコミュニケーション教育の実践を紹介し、それぞれ学習者や教師の言語的文化的な多様性を活かした学習環境のデザインについて話題提供を行います。そして4つの報告を踏まえ、参加者の皆さんと「協働」という観点から言語教育の環境整備について考えます。日頃の教育実践についての問題意識を共有し、我々の言語教育をより充実したものにしていけるよう知恵を深めていきたいと思ひます。